

平成 30 年度（2018 年度）
豊中市立環境交流センター
事業報告書

特定非営利活動法人

とよなか市民環境会議アジェンダ 21

<目次>

1. 全体のまとめ	2
2. 施設の維持管理・運営体制	3
3. 管理運営業務の実施状況	8
4. 施設の利用状況	47
5. 指定管理業務に係る経費の収支状況	50
6. 自主事業の実施状況	52
7. 自主事業の経費の収支状況	54

【報告書内の表記について】

- ・参加者数に当団体の職員は含んでいません（注釈のある場合を除く）。
- ・当団体の会員とは、当団体で活動するボランティアの市民を意味しています。
- ・「3. 管理運営業務の実施状況」内の丸番号は、事業計画時の丸番号と一致しています。
そのため、事業計画に記載のなかった内容は、○としています。
- ・「6. 自主事業の実施状況」内の丸番号は、事業計画時の丸番号と一致していません。
- ・当団体の会計報告は、NPO法の改正に伴い、活動決算書（活動計算書）となっているため、自主事業の経費の収支状況はそれに従って記載しています。
- ・ただし、指定管理業務の経費の収支状況は、表題から当団体の活動計算書と意味が異なるため、収支決算書と記載しています。

1. 全体のまとめ

環境交流センター（以下、「施設」という）は、平成 30 年度から第 2 期の 5 年間でスタートし、特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21（以下、「当団体」という）が指定管理者として引き続き運営を担いました。

当団体は、「豊中市環境基本計画」と車の両輪のように位置づけられている、地球環境を守る市民・事業者・行政の行動計画「豊中アジェンダ 21」を推進する組織として、豊中市域における持続可能な地域の実現をめざして、市民が主体となり、行政・事業者と連携して活動を行っています。施設の事業目的は、当団体が推進する「豊中アジェンダ 21」の内容と一致するところであり、施設の運営を通して、「第 3 次豊中市環境基本計画」と「第 3 次豊中アジェンダ 21」が共有する「望ましい環境都市像」の実現、および「第 3 次豊中アジェンダ 21」の 80 項目の行動提案の達成をめざして、施設の管理・運営を行ってきました。

実施に際しては、リサイクル交流センターと環境情報サロンの機能統合という経過を踏まえ、市民や市民団体の集う場（環境プラットフォーム）として、市民が参加・参画した形での運営を行いました。さらに、環境活動に関心のある市民はもとより、環境問題に関心のない市民も気軽に立ち寄ることのできる場づくりの実施、および、多様な分野との連携もめざしました。施設の事業の一部は、当団体の各部会・プロジェクトのメンバー（ボランティアの市民）が中心となって企画・実施を行い、市民が市民に対して普及・啓発を行いました。

こうした中で、第 2 期の 5 年間は、「誰もが集える交流空間から」「気づきから実践に向けて」「地域と共に歩む施設へ」という 3 つのコンセプトを掲げ、以下のビジョンの達成をめざすこととしました。

「環境」は、家庭や地域、社会での生活そのものであり、生きていく中で必要不可欠なことである。そのことに気づき、自ら行動できる人を育てることや支えることで、地域で活動が実践されたり、「環境」への理解が広がる。

平成 25 年度からの第 1 期は、多くの市民の利用者に対して「種をまく」期間であったのに対し、第 2 期は、まいた種を「いかに育てて・つないでいくか」という期間と位置づけました。種を育てていくにあたり、“環境＝家庭や社会での生活そのものであることを気づいてほしい”“気づいたことを周りに伝えてほしい”“学んだことが地域に広がってほしい”という考えのもと、各事業に取り組みました。

平成 30 年度は具体的に、エシカルマーケットや親子ぐるぐるフェスの開催、施設間連携スタンプラリーの実施、制服・学用品のリユースの拡充などを行いました。さらに、来場者を対象としたファンクラブ制度の運用、リユースバザーのように市民参加による取組み、ぴったんこ隊や ESD セミナーのような団体との連携による取組み、南桜塚校区を中心とした地元地域との連携など、第 1 期に築いてきた成果を継続し、環境への理解を広げていきました。

なお、こうした事業の実施を通して、平成 30 年度の来場者数は 18,458 人、稼働率は 67.4%となり、いずれも最高評価サービスレベルを上回る結果が得られました。来場者数は、平成 29 年度の来場者数 17,306 人から 1,000 人以上の増加となりました。さらに、来場者数とは別に、自然観察会や ESD セミナーなどの施設外での取組みに対し、882 人の参加がありました。

2. 施設の維持管理・運営体制

(1) 施設概要

- ・施設名 豊中市立環境交流センター
- ・所在地 豊中市中桜塚1丁目24番20号
- ・施設規模 床面積 658.97 m²
- ・開館時間 9時～17時
- ・休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）
12月29日～1月3日
- ・貸室区分 9時～12時、13時～17時
- ・受付開始 目的利用：使用日3ヵ月前の月の初日から先着順（初日が休館日の場合は翌日から）
目的外利用：使用日1ヵ月前の月の初日から先着順（初日が休館日の場合は翌日から）
- ・貸室 会議室1、会議室2、展示スペース（会議室1はABCの3つに分けることができる）

(2) 開館日数、および臨時休館

①開館日数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
日数	26日	26日	26日	26日	27日	24日	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日数	26日	26日	24日	24日	24日	27日	306日

※開館時間中に臨時休館した日は日数に含んでいない

②臨時休館

日時	内容
9月4日（火）全日	台風21号の接近に伴うもの
9月30日（日）10:00～17:00	台風24号の接近に伴うもの

(3) 運営体制

①職員

総括責任者1人、職務代理者2人（以上3人が常勤）、非常勤1～3人で施設運営にあたりました。

②担当理事

施設の運営と当団体の活動がうまくリンクするため、および、運営に関する当団体の意思決定を円滑に進めるため、当団体理事の中から担当理事5人（6月末までは理事6人、いずれも理事職の総括責任者含む）を選出し、担当理事会を4回開催しました。

月日	5月16日（木）	12月21日（水）	1月10日（木）	3月5日（火）	合計
参加者数	8人	5人	6人	5人	24人

※参加者数には同席した当団体職員も含む

③研修の実施

職員の能力向上、および施設運営に必要な知識を得るため、研修計画に基づき、研修の参加・実施を行いました。また、職員が自主的に受講する研修や、職員が講師となるための知識や技能を伝達するための研修も実施しました。

日時	内容	会場	研修の種類	参加者数
5月10日(木)～ 9月13日(木) 19:00～21:00 (計16日)	手話通訳奉仕員養成講習会 入門編(主催:豊中市)	豊中人権まちづくりセンター	自主的に受講する研修	1人
6月29日(金) 10:00～12:00	紙すき講習	環境交流センター	専門的な研修	3人
7月6日(金) 9:30～10:30	消防訓練	環境交流センター	基礎的な研修	4人
7月27日(金) 10:00～11:30	アンガーマネジメント入門講座 (主催:(一社)日本アンガーマネジメント協会)	大阪市立総合生涯学習センター	自主的に受講する研修	1人
8月8日(水) 9:00～10:30	1年目研修	環境交流センター	基礎的な研修	1人
9月19日(水) 9:50～16:50 9月20日(木) 9:50～15:55	防火管理講習	豊中商工会議所	資格取得に関する研修	1人
9月28日(金) 10:00～13:00	新聞エコバッグの製作研修	環境交流センター	専門的な研修	3人
9月28日(金) 15:00～16:30	平成30年度人権問題事業者 学習会(主催:豊中市)	すてっぷホール	人権に関する研修	2人
1月31日(木) 9:15～9:45	消防訓練	環境交流センター	基礎的な研修	3人
2月7日(木) 12:00～16:00	人権研修(主催:豊中市)	リバティ大阪	人権に関する研修	1人
3月27日(水) 13:30～16:30	エコゲーム研修	環境交流センター	専門的な研修	2人
合計		11回		22人

※施設運営にあたった当団体職員(6人)のうちの参加人数

(参考)研修の種類別の実施回数・人数

種類	回数	延べ人数
(1) 人権に関する研修	2回	3人
(2) 基礎的な研修	3回	8人
(3) 専門的な研修	3回	8人
(4) 自主的に受講する研修	2回	2人
(5) 資格取得に関する研修	1回	1人
合計	11回	22人

④職員面談

次年度の職員体制に向けて、職員の勤務状況や現状の課題などを確認するため、当団体の理事長との個別面談を実施しました。

実施期間：3月15日（金）～28日（木）

（４）運営会議

業務の状況報告やモニタリング、管理運営の検討などを行うため、当団体職員と環境政策課で運営会議を毎月実施しました。

月日	4月17日（火）	5月23日（水）	6月21日（木）	7月13日（金）
当団体	2人	2人	2人	2人
環境政策課	2人	2人	2人	2人
月日	8月16日（木）	9月13日（木）	10月31日（木）	11月22日（木）
当団体	2人	2人	2人	2人
環境政策課	2人	2人	2人	2人
月日	12月20日（木）	1月17日（木）	2月19日（木）	3月29日（金）
当団体	2人	2人	2人	2人
環境政策課	1人	2人	2人	2人

※8月16日は当団体のインターンシップ生3人も同席

（５）来場者アンケート

施設利用者に対するサービス改善、および指定管理者のモニタリング事項として、来場者アンケートを実施しました。結果については、別途提出した報告書の通りです。

- ・期間：2月6日（水）～28日（木）
- ・対象：施設に来場した高校生以上の方
- ・回収数：109枚（目標数100枚）
- ・実施方法：受付への設置、および来場者への配布
- ・その他：回答者の中から抽選で10人に図書カード（500円）を進呈
中学生以下を対象に、簡易なこどもアンケートもあわせて実施
（こどもアンケートは30枚回収、回答者全員に粗品（文房具）を進呈）

（６）設備点検・維持、および修繕

①設備の点検・維持（定期）

- ・床のワックスがけ（年3回）
- ・床のワックス剥離（年1回）…会議室1のみを実施
- ・空調設備の点検（年4回）…業者による点検2回、職員による簡易点検2回
- ・自動扉の点検（年4回）
- ・消防設備の点検（年2回）
- ・施設屋根の点検（年5回）…空調設備の簡易点検とあわせて実施（2回）
地震・台風後の点検（3回）

②設備や備品の修繕・追加

月日	内容
7月13日(金)	屋上にある空調設備の室外機の一部にあった部品の脱落を修繕 ※大阪北部地震によるもの
7月19日(木)	湯沸室の水道(給水側)の管の部品交換 ※前日に湯沸室と事務室の床の一部が漏水したことによる対応
2月12日(火)	エントランスの折り上げ天井の照明の修繕(蛍光灯からLEDへ)
3月16日(土)	駐輪場の伸縮扉の受け金具の変形部分を修繕

③施設の維持

月日	内容
4月4日(水)	裏庭の枝の剪定
6月16日(土)	裏庭の草抜き
8月11日(土)	会議室1の机のキャスター部分をすべて清掃
8月16日(木)	施設前のタイル清掃
8月26日(日)	裏庭の枝の剪定
9月30日(日)	裏庭の木の伐採

④その他

月日	内容	備考
5月31日(木)	空調機器室外ユニット点検・修理	メーカーによるリコール対応
8月15日(水)	消防署の査察	特に問題なし

(7)安全管理対策の状況

①安全管理マニュアル

当団体の職員、および会員が生命身体に危険を及ぼす可能性のある作業を行う際の留意事項をまとめた「安全管理マニュアル」を作成・提出しました。同マニュアルは、当団体の職員全員、および該当する会員に配布するとともに、施設の事務室や倉庫などの目立つ場所に掲示しました。

なお、安全管理マニュアルに該当する作業による怪我や事故はありませんでした。

②緊急時のマニュアル

急病・けが、交通事故、地震、不審者・不審物、火災、警報といった緊急時の対応をまとめたマニュアルを整備しています。

なお、平成30年度中に関連する対応はありませんでした。

③賠償責任保険、行事保険

施設の来場者への責任を果たすため、賠償責任保険に加入しました。また、屋外・施設外で実施するイベントのうち、参加者が怪我する可能性があると思われる行事に対し、行事保険に加入しました。

なお、平成30年度中にいずれの保険も執行はありませんでした。

④その他の事故について

①～③には該当しませんが、指定管理者の責めに帰すべき事故が1件ありました。

月日	内容	改善
10月26日(金) 17:00頃	集いの広場のうち、曾根駅側の公園内に女兒2人(友人同士)が中にいたにもかかわらず、当団体の職員が十分に確認をせず、出入り口を施錠してしまった。	顛末と今後の施錠時の対応を記載した文書を環境政策課へ提出した

(8) クレーム・課題点

施設運営の中で、利用者から寄せられたクレームや課題点について、適切に対応・改善しています。

月日	内容	対応
6月16日(土)	参加者から当日のスタッフ(ボランティアメンバー)に対して、「eMIRAIE」が読めない、施設名の前に「eMIRAIE」がついているために「eMIRAIE」という団体が運営しているように見える(豊中市立と思わない)ため、広報とよなかに載っていても不安を感じるという指摘があった。	当日のスタッフ(ボランティアメンバー)がネーミングライツ制度を説明
3月20日(水)	60~70歳代の男性がごみカレンダーを希望して来場した。センターでの通常の対応通り、インターネットからプリントして渡したところ、コピーしかもらえず不満であったようで、市の施設すべてで原本を配るようにしてほしいという苦情を受けた。	原本は置いていないので渡せない旨を説明するとともに、対応後に家庭ごみ事業課へ報告した

(9) その他

警察からの要請や問合せに対して、適切に対応しました。

月日	内容
4月28日(土)	岡町駅前の交番の方から、貸室利用の年配の利用者を対象に振り込め詐欺などの注意喚起を行いたいという依頼があった。5月10日(木)~25日(金)に、スタッフが貸室利用者に事情を説明して承諾を得た上で、4日間で5件の貸室(合計60人)に対して注意喚起の説明をされた。
12月12日(水)	豊中警察署から、北朝鮮に関する啓発用のポスターを掲示してほしいとの依頼があり、施設内の掲示板に掲示を行った。12月12日(水)に別の方が再度来場し、ポスターを掲示している様子を写真撮影された。
3月12日(火)	施設周辺で交通事故を処理される際、警察官が来場し、施設の住所を確認された。

また、ガールスカウト大阪府第58団が活動の場所として施設を利用していることに対して、3月15日付で(一社)ガールスカウト大阪府連盟からお礼状を贈呈いただきました。

3. 管理運営業務の実施状況

(1) 地球環境の保全等に関する活動のための交流の場の提供

施設は日常的に人が訪れて、交流し、にぎわいがある場となることをめざして、日常的な取組み、行事など特定の日の取組みを複合的に実施し、多様な場づくりを行いました。

①ファンクラブ制度の運用

平成 26 年 4 月から、施設に愛着を感じ、施設を応援してもらおうファンクラブ制度の運用を開始しました。施設の取組みに協力していただける市民の方を登録し、メンバー証の発行、メールマガジンの配信、メンバー限定特典の提供などを行いました。平成 29 年度末の登録者数 485 人に、平成 30 年度の新規登録と退会をあわせて、平成 30 年度末の登録者数は 573 人（大人メンバー 441 人、ジュニアメンバー 132 人）でした。

平成 28 年度からは、メンバーの中から協力者を募り、市民と一緒にファンクラブ制度の運用の仕組みを考える場（ファンクラブ改善隊）を実施してきました。しかし、メンバーにとってハードルが高いということから、平成 30 年度はメンバーが定期的に参加できる場（交流サロン）に変更し、おしゃべりカフェを 3 回実施しました。

【ファンクラブの登録者数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
新規登録	11	2	15	4	14	4	9	2	9	5	18	4	97 人
退会	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	1	9 人

【メールマガジンの配信数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
配信数	225	225	230	230	234	236	242	241	243	242	245	248

※9 月は月に 2 回配信（配信数が重複する場合は 2 回目の配信数）

【ファンクラブ対象の行事】

日時	内容	参加者数
6 月 28 日（木）10:00～12:00	おしゃべりカフェ「エコゲーム体験会」	7 人
9 月 27 日（木）10:00～12:00	おしゃべりカフェ「エコゲーム体験会」	1 人
12 月 13 日（木）10:00～12:00	おしゃべりカフェ	2 人
2 月 9 日（土）13:00～15:30	ファンクラブ交流会	46 人
合計	4 回	56 人

※参加者数は当団体の会員や同伴の乳幼児を含む



<成果や工夫したこと>

- ・おしゃべりカフェでは、飲み物やおやつを用意し、図書・資料室の図書の展示やエコゲームの体験といった気軽に参加できる場づくりを行いました。
- ・ファンクラブメンバーやセンターの利用者から施設利用についての意見を聞いたところ、他の利用者と気軽に交流できる場を求めていることがわかりました。
- ・ファンクラブ交流会では、とよなか地域創生塾によってできたグループ「コト&コト」の協力を得て実施しました。参加者アンケートも非常に好評でした。また、交流会の場は「コト&コト」にとっても活動を広げる場となり、相互協力が果たされた形となりました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・ファンクラブ制度は、施設に来場してもらう入口として開始し、「施設でのボランティア」から「地域でのボランティア」へとステップアップしてもらい、豊中での環境活動の裾野を広げていくことをめざしています。入口から「施設でのボランティア」へとステップアップする時期にきています。
- ・おしゃべりカフェは平日午前の開催であったため、多くの参加はありませんでした。今後もメンバーが気軽に参加できる内容を検討していきます。

②ポイントカードの配布

ファンクラブメンバーを対象にポイントカードを配布し、施設の利用や行事の参加などに応じてポイントを付与し、ポイントが貯まれば景品を進呈しています。また、ジュニア（子ども）向けのポイントカードについて、平成 30 年度から新たな仕組みでスタートしました。ポイントカードについて、平成 30 年度中の景品の交換数は 89 件でした。

また、平成 31 年度（2019 年度）より大人メンバーへ切り替わるジュニアメンバーが 1 人いることから、平成 30 年度中に対象者へ大人メンバーのポイントカードを送付しました。



<成果や工夫したこと>

- ・ジュニアのポイントカードがインセンティブとなり、ジュニアのファンクラブメンバーが増えました。平成 30 年度の新規登録 97 人中 46 人がジュニアでした。
- ・ジュニアのポイントカードの改善により、平成 29 年度までは年間数人しかポイントを貯めていませんでしたが、平成 30 年度は 19 人がポイントを貯めて景品へと交換を行いました。
- ・ジュニアのポイントカードは、子どもが紛失することが多いため、センターで保管する仕組みに変更したことから、これまでよりも職員と子どもたちのコミュニケーションの機会が増えました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・定期的に施設を利用するジュニアメンバーは増えたものの、利用のしかたがポイントカードをゲーム感覚で楽しむことに留まっているため、環境への学びにどうつなげていくかが課題です。
- ・ジュニアのポイント付与について、適切であるかを点検することが必要です。

③陶器とりかえコーナー

家庭で使わなくなった陶器を回収・展示し、希望する来場者が自由に持ち帰ることができるようにしました。赤ちゃんからの ESD が実施している「陶器とりかえ隊」の常設コーナーとして、当団体が日常的な管理や、とりかえの対応を行いました。

また、豊中市伊丹市クリーンランドの事業として、陶器を回収してリサイクルする事業への協力依頼があったことから、これまではやむなく廃棄していた、とりかえできない陶器をクリーンランドへ提供し、リサイクルへと協力しました。



<成果や工夫したこと>

- ・多くの市民が陶器とりかえコーナーをめざして来場しており、取組みが定着してきています。
- ・新たな来場者が陶器を持ち込む場合も多く、陶器とりかえコーナーが市民の口コミなども含めて、より広がってきています。
- ・クリーンランドの陶器の回収は、資源循環の観点や来場者への持ち込みの定着などから、あくまで従来通り、とりかえを優先することとし、やむなく混ざっていたヒビや欠けのある陶器や、展示中に割れた陶器に限りリサイクルに提供するというのを整理しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・陶器の回収よりも持ち帰りが多く、設置されている陶器がほとんどない時もあります。陶器を回収している他の施設との連携や循環も検討していきます。

④フリースペース・キッズコーナー

展示スペースにテーブル・イスを設置して貸室利用がない時に予約なしに利用できるフリースペースと、子どもが靴を脱いで遊べるスペース（キッズコーナー）を設けました。また、新たにフリースペースに小学生対象の環境学習のワークシートを設置し、生活を通して環境問題を考えることができるようにしました。



<成果や工夫したこと>

- ・平成 29 年度に実施したキッズコーナーの改善、および、おもちゃや絵本の見直しにより、キッズコーナーの利用が増えました。また、センターのイベント時の一時保育の際も、おもちゃや絵本を活用してもらいました。
- ・キッズコーナーを利用する親子に、おもちゃに使用されている木材への関心を深めてもらうため、木材の樹種の掲示を作成しました。
- ・小学生対象の環境学習のワークシートを導入し、子どもの環境調査や学習につなげる機会としました。なお、導入に際しては、ファンクラブ交流会に参加した小学生に対して試行実施を行いました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・キッズコーナーのおもちゃや絵本の補充は継続して検討していくことが必要です。
- ・環境学習のワークシートの種類が限られているため、新たなワークシートの提供が必要です。

⑤エコゲーム

フリースペースで、みんなで遊ぶことができるエコゲーム（電源を使わないボードゲームなど）を 10 種類用意し、ファンクラブメンバーを対象に施設内での貸出しを行い、年間で 118 回の利用がありました。

また、エコゲームを通したコミュニケーション力を高める講座を開催しました。教育関係者や若い保護者世代を対象とし、講座の受講者が地域での担い手や、当施設のエコゲーム大会のサポーターとして関われる仕組みづくりをめざして実施しました。

【エコゲームで身につけるコミュニケーション】

日時	講師	参加者数	一時保育
3月27日（水）13:30～16:30	畑直樹さん（あそび文化研究所所長）	9人	2人

※当初は 8 月 25 日（土）に計画したが、参加申込者がいなかったため中止とした

※参加者数は講師を含む、講座に参加した職員は含んでいない



<成果や工夫したこと>

- ・ジュニアのポイントカードにエコゲームの利用を入れたことから、エコゲームの貸し出しが前年度の 93 回から 118 回に増加し、施設での子どもたちの過ごし方の 1 つとして定着しつつあります。
- ・職員がエコゲームの意義をより理解できるように、職員も講座へ参加し、理解を深めました。
- ・平成 29 年度までの講座の修了生との連携により、おしゃべりカフェなどでのエコゲーム指導に協力してもらえました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・講座へのニーズはあるものの、参加者がなかなか集まらず、1度は開催中止になりました。
- ・講師が多忙になったため、平成 30 年度はエコゲーム大会を実施できませんでした。一方で、講座の修了生がエコゲーム大会に必ず協力を得られるような仕組みになっていないため、今後はエコゲーム大会のあり方や体制も含めて検討が必要です。

⑥リサイクル工作

家庭の不用品や身近な材料を利用し、暮らしを便利にするような手作り工作を行います。

日時	内容	講師	参加者数
6月14日（木） 13:00～15:30	着物地や端切れで作る眼鏡ケース	そね 21 の会レディース	25 人
8月9日（木） 13:00～14:00 15:00～16:00	紙すきではがき作り	当団体職員	27 人
10月25日（木） 13:00～15:30	ちりめんで作る鏡餅	そね 21 の会レディース	23 人
3月20日（水） 13:00～15:00	新聞紙でエコバッグ作り	当団体職員	6 人
合計	4 回		81 人

※参加者数は講師を含む（6月14日、10月25日）



<成果や工夫したこと>

- ・平成 30 年度も施設の利用者や地域で活動する団体を講師とし、企画から相談して進めました。
- ・紙すきではがき作りは、これまで地域で活動する団体に講師をお願いしていましたが、団体が紙すきをやめるということから、道具を譲り受け、実施方法のレクチャーを受けた上で、当団体の職員が講師として実施しました。
- ・新聞紙でエコバッグ作りは、過去の講師からレクチャーを受けて、当団体で一定期間ごとに実施していましたが、講師役の職員が退職したことから、新しい職員が技術を受け継ぎ、今回の講師として講座を実施しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・平成 30 年度は実施回数が減ってしまったため、新たな団体や新たなテーマでの実施も検討し、内容を充実させていきます。

⑦リユースコーナー

豊中市伊丹市クリーンランドや豊中市家庭ごみ事業課と連携し、クリーンランドで回収したまだ使える家具や、豊中市臨時ごみリユース支援事業から提供を受けた家具などのリユース品を展示し、最終日に抽選会を行って、希望する市民へ提供しました。

展示期間	提供元	応募数	抽選会・抽選者	抽選方式
6月20日(水)～ 7月22日(日)	豊中市伊丹市ク リーンランド	10点中9点 に合計36件	7月22日(日)14:00～ 参加者45人(スタッフ含む) クリーンランドが抽選	抽選会の参 加者を優先
9月6日(木)～ 28日(金)	豊中市臨時ごみ リユース支援事 業	16点中11点 に合計41件 (残り5点を追 加抽選し、3点に 合計8件)	9月29日(土)14:00～ 参加者26人 当団体職員が抽選	抽選会の参 加者を優先
2月6日(水)～ 28日(木)	豊中市臨時ごみ リユース支援事 業	16点中13点 に合計68件 (1点は当選者が 辞退)	3月1日(金)14:00～ 参加者8人(市職員含む) 当団体職員が抽選	抽選会の参 加に関わら ない

※応募数は抽選までにキャンセルの申し出があった物を含む



<成果や工夫したこと>

- ・臨時ごみリユース支援事業から提供を受けた家具などによるリユースコーナーは、平成28年度に初めて実施し、平成29年度は実施できなかったものの、平成30年度は2回実施することができました。
- ・9月の抽選ではクリーンランドの抽選方式にそって実施しましたが、参加者の意見などを踏まえて、2月の抽選会では独自の抽選方法へと変更しました。
- ・2月のリユースコーナーの応募者に対して、家庭ごみ事業課から提供のリユースコーナーに関するアンケートを実施し、参加者のニーズ把握に協力しました。

<これからの方向性(現状の課題を含む)>

- ・今後はクリーンランドと臨時ごみリユース支援事業による実施によって、抽選方式が異なってくるため、来場者が混乱しないよう、応募の際に丁寧に説明していくようにします。

⑧リユースバザー

参加する市民を募集し、家庭で使わなくなった衣服や生活用品を安く販売するリユースバザーを開催しました。地域こだわりマルシェ&野菜市場と一緒に実施することで集客を確保するとともに、定期的に古本市や省エネ相談会を同時開催することで複合的なにぎわいを作り出しました。また、出店者の意見を踏まえて、実施方法を少しずつ改善・変更して進めました。

また、子どもが主体となったバザーの機会として、えこっ子フリマ（子ども店長による子どもの物品を販売するバザー）を親子ぐるぐるフェスにおいて実施しました。

【リユースバザー】

月日	出店数	参加者数	同時開催
4月7日（土）	13店	207人	地域こだわりマルシェ&野菜市場
6月2日（土）	14店	172人	地域こだわりマルシェ&野菜市場
8月4日（土）	11店	201人	地域こだわりマルシェ&野菜市場
10月6日（土）	13店	212人	地域こだわりマルシェ&野菜市場
12月8日（土）	13店	157人	省エネ相談会、おもちゃ病院
2月2日（土）	14店	238人	地域こだわりマルシェ&野菜市場、古本市
合計	78店	1,187人	

※時間はいずれも 10:15～13:00

※出店数は、主催者関係も含めて 14 店を予定したが、直前のキャンセルにより 14 店に満たない出店数の場合もある（8月のみ応募の段階で 14 店に満たなかった）

※参加者数は同時開催の人数を含む（ただし、12月のおもちゃ病院のみ含まない）



【えこっ子フリマ】

日時	出店数	参加者数
1月20日（日）13:00～15:30	6店	327人

※参加者数は行事全体の人数



<成果や工夫したこと>

- ・整理収納サークルのメンバーと協力し、家庭の不要なものの循環という実施目的が市民に伝わるように、整理収納サークルが出店する際は、開始前の出店者ミーティングで、ものの循環などを呼びかけてもらいました。
- ・出店者から、出店の説明資料を少なくしてほしいとの希望があったため、内容を整理してボリュームを減らしました。その結果、紙の省資源化や発送作業の効率化にもつながりました。
- ・リユースバザーに親子で出店を希望するニーズも一定程度あることから、平成 30 年度も親子ぐるぐるフェスで小学生が店長となる「えこっ子フリマ」を実施しました。
- ・「えこっ子フリマ」では、物が大切にしたいを次の人につなぐため、販売物と一緒に次に使う人へのメッセージカードを渡すことを出店ルールにしました。その一方で、参加者の負担軽減のため、事前説明会への参加ではなく、窓口へ個別に説明を聞きに来る方法へと変更しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・12月のリユースバザーは、開催前日の貸室利用の関係で、地域こだわりマルシェ&野菜市場とは別日程で開催しました。その結果、通常よりもやや参加者数が減少しました。
- ・リユースバザーは開催時期により、来場者数に大きな開きがあります。また、開催日によって、来場者の滞在時間にも開きがあります。今後は、同時開催の企画内容や、ファンクラブポイントの付与など、参加者増に向けた対策を検討していきます。
- ・「えこっ子フリマ」は、開催回数が少ないことから、まだあまり周知されておらず、応募件数が少ない状況です。今後はより多くの参加が得られるように、広報していきます。

⑨親子フェスティバル

未就学児から小学生くらいの子どもと、その保護者を対象に、3Rの行動を通してモノと向き合い、モノを大切にしている習慣と、ごみの減量を意識したくらしを考えるための参加・体験型イベント「親子ぐるぐるフェス」として開催しました。モノへの思いをメッセージカードに添えて次に使う人へ販売する「えこっ子フリマ」、制服・学用品の販売や絵本の交換会などを通して、出展者と参加者の交流をはかりました。また、多くの親子の参加を得るため、他団体と連携し、絵本の読み語りやリサイクル工作、おもちゃ病院なども一緒に開催しました。

なお、実施に先立ち、絵本の交換会で使用する絵本について、期間を設けて回収を行いました。

日時	内容	参加者数
12月4日（火）～1月13日（日）	絵本の回収	—
1月20日（日）13:00～15:30	親子ぐるぐるフェスの開催	327人

※参加者数は出店者を含む



<成果や工夫したこと>

- ・出展団体が趣旨を理解し、独立して企画を実施してもらえたため、制服・学用品の販売、絵本の交換会、絵本の読み語りなど、充実した内容を多数盛り込むことができました。
- ・レモネイドを子どもたちが販売し、販売の売上げの半分が子どもたちへの給料となる豊中こどもレモネイドにも出店してもらうことで、「えこっ子フリマ」と類似した趣旨の企画を盛り込むことができました。
- ・平成 29 年度の試行実施を踏まえて、施設内の配置を見直すとともに、開始前の整列方法などを来場者に示すことができました。これらにより、当日に混乱はありませんでした。
- ・ブログで内容を詳細に告知したこともあり、1 ヶ月に 55 万ページビュー（公称）のアクセスがある WEB サイト「TNN 豊中報道。2」にて、開催前後の計 2 回、それぞれ単独ページで詳しく紹介してもらうことができました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・出店者、来場者ともに非常に好評であったことから、開催頻度を増やすといった積極的な方向性を検討していきます。

⑩エシカルマーケット

エシカル (ethical) は、「倫理的」「道徳的」という意味ですが、最近では「環境保全や社会貢献」といった意味合いが強くなっており、倫理的消費者という意味で、「人権に配慮した商品を買うこと」「動物に配慮した商品を買うこと」「寄付金付き商品を買うこと」などを行う消費者をエシカルコンシューマーと呼びます。そのような商品を取り扱う団体などを集めて、エシカルマーケットを開催し、誰もが気軽に参加してエシカルコンシューマーを実践する場の試行を行いました。

また、エシカルマーケットは平成 25～28 年度に実施した「リユース手しごと市」にかわるものとして、環境団体だけでなく、福祉、途上国支援、マイノリティ支援、被災地支援に取り組む団体などの参加を得て、分野を超えた団体同士の交流や連携をめざしました。

日時	出店数
9月22日(土) 13:00～15:30	124人

※参加者数は出店者を含む



<成果や工夫したこと>

- ・環境団体以外の交流や連携の目玉として、アイヌ関係の団体をゲストとして、ワークショップを実施してもらうことができました。また、その他の団体も含めて、環境、国際、人権、地域など様々なテーマで活動する団体の参加を得たことにより、イベントを通して、広い視点でのエシカル消費を具体的に例示することができました。
- ・出店者に広報協力をよびかけ、SNS での情報発信などに協力してもらいました。出店団体の協力を

得たことで、より効率的にイベント周知をすることができました。

- ・エシカルに関心がある大学生の団体（有志メンバー）に当日の運営スタッフとして協力してもらいました。また、大学生と出店団体が交流したことを契機に、大学生と出店団体の連携につながったケースもありました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・出店を呼びかけたものの、日程の合わなかった団体が複数あり、当初の計画よりも物販の件数が減ってしまいました。
- ・イベントの質は高かったものの、来場者数が少なかったことから、広報や企画内容について再検討していきます。

⑪地域こだわりマルシェ&野菜市場

地産地消および循環型社会の推進のため、とよっぴーで育てた豊中産の野菜などを頒布しました。また、「豊中市小売商業団体連合会」と連携し、環境や健康に配慮し、こだわりを持って地域で商いをしているお店の商品も販売しました。

月日	4月7日	5月5日	6月2日	8月4日	9月1日	10月6日
参加者数	207人	76人	172人	201人	74人	212人
月日	11月3日	12月1日	1月5日	2月2日	3月2日	合計
参加者数	66人	101人	52人	238人	62人	1,461人

※いずれも土曜の10:00～11:30で実施

※7月7日（土）は大雨警報の発令により開催を中止

※4・6・8・10・2月はリユースバザーと同時開催のため、バザーの参加者を含む

※参加者数は販売のスタッフを含む



<成果や工夫したこと>

- ・多くの参加を得るため、引き続き会員が中心となって周辺地域へチラシの配布を行いました。
- ・開催当日は開館前から施設前で待っている参加者の方が複数いるなど、行事が定着しつつあります。
- ・警報の発令により、初めて開催の中止がありました。前日から中止を見込んで段取りしたため、販売スタッフも大きな混乱なく対応していただけました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・出店関係者の都合により、第1土曜日に設定しているため、開催の予告を同月の広報とよなかに載せられなかった月は参加者数が減る傾向にあります。広報とよなか以外の広報について、検討していきます。

⑫自然工作

豊中産の自然素材（竹や小枝など）を使って、自然工作を実施しました。

日時	内容	講師	参加者数
8月8日(水)10:00 ～11:30	豊中の竹を使った笛作り	当団体の自然部会・竹炭プロジェクトのメンバー	49人
12月15日(土) 10:00～11:30	お正月に遊ぶミニたこづくり		43人
合計	2回		92人

※参加者数は当団体の会員を含む



また、自然工作とあわせて、工作や工作の自然の材料に関する展示を行いました。

期間	内容
12月14日(金)～22日(土)	自然工作関連展示

<成果や工夫したこと>

- ・工作で作る内容を変えながらも、引き続き季節に応じた内容を設定しました。
- ・工作だけではなく、のこぎりを使って竹を切る体験も行ったことが好評でした。
- ・8月の参加者から工作の材料である竹に関する質問があったことから、12月の工作にあわせて質問の答えとなるような関連展示を実施しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・ミニたこづくりは、作り方の説明がわかりにくい部分もあったようなので、作り方の図を配布するなどの工夫を検討していきます。
- ・現在は基本的に親子を対象としていますが、子どもや孫のいない大人からのニーズが一定あるため、今後のあり方を検討していきます。
- ・関連展示について、当初は「豊中の生物多様性展」と銘打って広報していたが、展示前にタイトルに関する問合せがありました。当初の展示企画の趣旨と掲載のタイトルでは誤解を招く懸念があったことから、展示期間と内容を見直して、最終的には「自然工作関連展示」として実施しました。

⑬おもちゃ病院

とよなか・おもちゃ病院と連携し、モノを長く使ってもらうため、壊れたおもちゃを修理する場を作りました。その場で修理できなかつたおもちゃは、入院として一時預かりを行い、とよなか・おもちゃ病院が修理後、持ち込んだ方へお返ししました。

月日	4月14日	6月9日	8月11日	10月13日	12月8日	2月9日	合計
参加者数	22人	21人	15人	23人	38人	31人	150人

※いずれもすべて土曜の10:00～11:30で実施

※参加者数は講師を含む



<成果や工夫したこと>

- ・開催がない月も含めて、開催に関する問合せが多く、ニーズがある行事となっています。
- ・おもちゃの持ち込みや、入院したおもちゃの引き取りの際に親子で一緒に来る参加者が多く、モノの大切さを子どもたちに感じてもらう機会となっています。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・開催時期によって、参加者数に大きく差があります。他施設で実施されているものやイベント内で行われるものも含めて、開催日時や場所といった広報を進めていきます。

⑭おはなし会「わにわに」

未就学児と保護者を対象にした絵本の読み語りを開催しました。環境につながる絵本を取り入れることや、簡単な手づくり工作をセットで行うことで、若い親子世代が環境やリサイクルに親しんでもらう機会としました。

月日	5月13日	9月9日	12月16日	2月17日	合計
参加者数	8人	13人	11人	4人	36人

※いずれも日曜の10:30～11:30で実施

※7月8日（日）は大雨警報の発令により開催を中止

※当団体の企画屋本舗プロジェクトが実施（参加者数は企画屋本舗の担当者を含む）



＜成果や工夫したこと＞

- ・乳幼児と保護者が気軽に参加できる場づくりを心がけています。その結果、普段は利用しない新たな参加者を得ることができました。

＜これからの方向性（現状の課題を含む）＞

- ・平成 30 年度は前年度までと比べても参加者数が少なくなりました。日頃から施設を利用している方の参加がとて少ないことから、多くの参加が得られるように、広報などを検討していきます。

○当初の事業計画以外の取組み

年度当初の事業計画では予定していませんでしたが、豊中市伊丹市クリーンランドと連携して講座を行いました。また、平成 30 年度に 3R をテーマとした親子フェスティバルを開催することに向けて、親子ぐるぐるフェスとして、試行的に実施をしました。

日時	内容	参加者数
7月 22 日（日） 13:00～14:00	クリーンランド市民講座（紙芯を使った黒猫づくり）	12 人
7月 22 日（日） 14:15～15:00	クリーンランド出前講座	15 人
合計	2 回	27 人

※参加者数は関係者などを含む



(2) 地球環境の保全等に関する情報の収集及び提供

環境問題そのものの情報から、環境活動や環境イベントに関する情報の収集・提供・発信、環境情報に関する問合せ対応、図書の閲覧・貸出、施設に関する情報の提供・発信など、さまざまな形で取り組みました。

①ホームページの運営

オリジナルのドメインによる、施設のホームページを管理し、施設・行事・環境情報などを発信しました。平成30年度のページビュー数は18,335でした（ブログページは除く）。また、豊中市のホームページの基準に合わせて、9月下旬からはSSLを利用した暗号化通信ができるようにしました。

さらに、ホームページの運営の一環として、スタッフブログを更新し、平成30年度に26件の情報を掲載しました。ブログではイベントの報告を掲載し、講師や参加者にも掲載したことを伝えて、ブログやホームページの認知度向上に努めました。

ホームページアドレス <https://kankyokoryu.jp/>



<成果や工夫したこと>

- ・環境交流センターのおしらせを毎月掲載するなど、適切なページの更新を行いました。
- ・ホームページのページビュー数は平成29年度の17,564ページから18,335へと微増しました。
- ・豊中市からの要請を受けて、SSLを利用した暗号化通信を即時対応しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・ページビュー数の把握について、従来からと別の解析方法を試行したところ、同じ期間でも数倍程度の違いがあったため、適切な把握方法について検討していきます。
- ・スタッフブログの更新が、平成29年度の30件からやや減少しました。より多くの情報を発信できるように、更新頻度を見直していきます。

②環境交流センターのおしらせ

施設の行事や案内を、「環境交流センターのおしらせ」としてチラシにまとめて毎月発行しました。まとめた内容は、施設内で来場者へ配布するとともに、豊中市内の公共施設にも配架しました。発行部数は各月550～700枚程度です。平成28年8月分からはA3サイズ両面（4ページ）へと拡充し、豊中市のおしらせや当団体の情報なども掲載していましたが、1年が経過する段階で豊中市と一緒に見直しを行い、平成29年8月分からは各月の情報量に応じてページ数を使い分ける形としていました。

平成30年度は、6月号からデザインをリニューアルしました。また、お知らせに掲載している内容は、豊中市立図書館のメールマガジンへ情報提供し、配信・掲載を通して広く周知しました。

なお、環境交流センターのおしらせは、環境交流センターのホームページでも公開しました。



<成果や工夫したこと>

- ・広報とよなかへ掲載した情報を中心に、毎月適切に作成・発行しました。
- ・パンフレットスタンドなどに設置されたものが手に取ってもらいやすくなることをめざして、6月号からデザインをリニューアルしました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・公共施設への配架した枚数に対して、行事参加などの反応が少ないことから、次年度は他施設への配架を取りやめて、様子を見ていくこととします。

③リーフレットの配布

来場者や行事参加者へ施設のリーフレットを配布するとともに、他の公共施設へも配架しました。



<成果や工夫したこと>

- ・より多くの人に手に取ってもらえるようにするため、開設当初以来で、他の公共施設へも配架を行いました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・もっと多くの市民に知ってもらえるように、さらなるリーフレットの活用方法を検討していきます。

④多様な媒体や手法による情報の発信

環境交流センターのおしらせの内容について、ファンクラブメンバーを対象にメールマガジンを発行するとともに、豊中市立図書館のメールマガジンへ情報提供し、配信を通して広く周知しました。

また、イベント告知ページへイベント情報の掲載を行いました。

<成果や工夫したこと>

- ・多様な配信により、施設の情報を知ってもらうことにつながりました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

・一方で、行事への参加にはあまりつながりませんでした。他の情報媒体や発信の方法について、検討していきます。

⑤環境ギャラリー

環境交流センターの展示スペースを活用し、環境にまつわる展示を行いました。

平成 29 年度は、指定管理事業に関するものや、生物多様性や 3R など環境をテーマとしたもの、市内外の団体の取組みに関連するものなどを紹介しました。

期間	内容	団体
3月20日（火）～4月5日（木）	SDGs 写真展「学生が見つけた 2030 年への課題」	上智大学
6月5日（火）～17日（日）	モットイナイは社会貢献	—
7月25日（水）～8月5日（日）	夏休み応援フェア 子どものための環境の図書展	—
1月23日（水）～2月20日（水）	あの日を忘れない！～いのちと環境を守り、未来につなごう～	福島プロジェクト 豊中
3月5日（火）～29日（金）	クイズでわかる SDGs 子どもの目線から学ぶ持続可能なまちづくり	JICA 関西



<成果や工夫したこと>

- ・年間を通して展示を実施したことで、展示を通じた情報発信をより広く行うことができました。
- ・フェアトレード、生物多様性、3R、SDGs など、これまで行っていないテーマを多く取り扱いました。
- ・外部の団体と連携した展示を複数回行いました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・これまで行っていないテーマを多く取り扱った反面、豊中市内の環境についての展示がほとんどありませんでした。

⑥身近な生き物調査

自然に関心のある市民を調査員として募集し、市民による豊中市内の自然調査を実施しました。平成30年度はツバメ営巣調査を行いました。

実施日	内容	場所	参加者数
5月12日(土)	調査員募集説明会	蛍池公民館	17人
5月12日(土)～8月20日(月)	調査期間	豊中市内	25人
9月20日(木)～3月7日(木)	準備・打合せ、まとめ作業、報告書作成(14回)	環境交流センター他	53人
3月23日(土)	報告会・交流会	くらしかん	17人
合計	17回		112人

※当団体の自然部会が実施

※調査員数 25人



<成果や工夫したこと>

- ・同様の調査を6年ぶりに実施し、4回目となる調査結果を得ることができました。
- ・調査結果から、巣立ったツバメの総数は6年前の499羽から今回の373羽へ激減したことがわかりました。
- ・調査を通して、水田の減少の現状についてもあわせて把握することができました。

<これからの方向性(現状の課題を含む)>

- ・巣立ったツバメの数は、全国的な1つの巣の平均ヒナ数と比べても1羽ほど下回っています。全国平均並みに引き上げるためには、自然環境の保全を継続するとともに、ツバメにとって住みやすい環境を考えていく必要があります。

⑦図書などの閲覧・貸出し

環境に関する図書や資料を設置し、図書・資料室にて閲覧スペースを設けるとともに、利用者が希望する図書などについて、内規に基づき貸出しを行いました。さらに、閲覧・貸出しを促進するため、環境ギャラリーの一環として、図書をテーマとした展示も実施しました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
貸出件数	2	1	4	5	1	2	0	2	3	4	2	0	26件
貸出冊数	2	2	9	12	1	2	0	3	3	8	4	0	46冊

※図書をテーマとした展示は、(4) ①環境ギャラリーに記載



<成果や工夫したこと>

- ・貸出件数が平成 29 年度の 24 件（33 冊）から 26 件（46 冊）へと微増しました。
- ・SDGs やマイクロプラスチックといった話題の図書を新たに購入し、貸出しを開始しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・交流フロア横に貼りだす「今月のオススメ」が滞る時期があったため、定期的に新しい図書を紹介できるようにしていきます。
- ・書籍だけでなく、DVD といった映像系の購入を検討していきます。

⑧学生の環境活動の支援

環境活動に関心ある学生が学びを深めるため、環境活動に関わる学生の活動支援などを行いました。

日時	内容
9 月 14 日（金） 10:00～10:30	共同通信社のインターンシップ生の対応 秋の夜の鳴く虫観察会についての模擬取材の対応
9 月 22 日（土） 9:30～17:00	アイセック大阪市立大学委員会の受け入れ エシカルマーケットで大学生 2 人を受け入れ
2 月 11 日（祝） 13:00～15:00	学生研修 大阪大学環境サークル GECS を対象に、ESD の教材等を活用したスキルアップ研修（参加者 8 人（講師役含む））
2 月 28 日（木） 13:30～17:00	大阪大学環境サークル GECS の総会出席（大阪大学豊中キャンパス）



<成果や工夫したこと>

- ・アイセック大阪市立大学委員会は、エシカルマーケットでの受け入れをきっかけに、3月のESDセミナーに協力してもらうなど、その後の連携へと発展しました。
- ・ぴったんこ隊をはじめとした大阪大学環境サークルGECSの取組みを向上させるため、ESDの教材を活用し、プログラムを体験してもらおうといった研修を行いました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・取材の対応や行事への受け入れなど、学生側のニーズに対する支援が中心となっている現状です。恒常的な支援の仕組みなどを検討していくことが考えられます。

⑨地域との連携強化

施設がある南桜塚校区の地域自治組織（南桜塚校区地域連絡協議会）に平成30年4月の総会から当団体として正式に加盟しました。協議会の一員としての役割を果たすことを通じて、地元地域との連携を強化し、地域での施設の理解向上へとつなげていくことをめざして参加しました。

なお、協議会の加盟団体は、防犯部会か防災部会のいずれかに参加することとなっており、当団体では防災部会に所属しました。

項目	日時	内容	場所
全体	4月22日（日）19:00～20:00	総会	南桜塚会館
	9月23日（日）19:00～20:30	運営委員会	南桜塚会館
	11月3日（祝）19:00～20:00		
	1月27日（日）19:00～20:00		
	3月24日（日）19:00～20:00		
1月13日（日）18:30～21:00	新年互例会	サマルカンド柴藤	
防災部会	5月26日（土）14:00～16:00	防災部会	南桜塚会館
	7月28日（土）19:00～21:00		
	9月22日（土）19:00～21:00		
	10月27日（土）19:00～21:00		
	11月17日（土）19:00～21:00		
	6月20日（水）8:30～18:30	防災セミナー	兵庫県広域防災センターほか
	9月29日（土）9:00～12:00	防災教室（スタッフ参加）	南桜塚小学校
11月23日（祝）9:00～12:30	防災訓練（スタッフ参加）	南桜塚小学校	
その他	11月7日（水）10:00～11:30	防犯啓発セミナー	南桜塚会館
	2月7日（木）12:00～16:00	地域自治組織対象の人権研修	リバティ大阪



<成果や工夫したこと>

- ・加盟団体の役割として運営委員会や防災部会に参加するとともに、スタッフとしての行事参加、見学会や研修会への参加など、できるだけ多くの機会に参加することで、顔の見える関係づくりを心がけました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・協議会への参加を通じて、地域での施設の理解向上には直結していないため、連携を通じて施設のPRを進めていきます。

⑩近隣団体・環境団体との連携

施設に勤務する当団体職員が、定期的に近隣の行政や環境団体と交流をはかり、近隣や広域の環境情報を把握するとともに、必要に応じて情報の提供・発信を行っています。

平成30年度は、特定の行事への参加などはありませんでしたが、他地域の環境分野の動向などについて、各地の環境団体や関係者と断続的に情報交流を行いました。

<成果や工夫したこと>

- ・各地で環境団体の統廃合や、SDGsなどの新しい分野への動きなどがあり、各地の環境団体や関係者との情報交流を通じて、現状を把握することができました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・平成26～28年度に池田エコミュージアムと相互に協力・交流を行ったように、近隣団体との交流を通じて、施設の活用につなげていくことが考えられます。

⑪施設内での情報提供

豊中市内外の環境イベントや環境に関する情報について、収集・提供・発信しました。

具体的には、施設に寄せられたポスターやチラシの掲示・配架を行うとともに、施設を利用して行われる行事チラシを掲示しました。

市民からの問合せや、来場者による環境情報の提供などを行いました。ごみに関する問合せは一定程度ありますが、環境活動などに関する問合せは減る傾向にあり、前年度よりも全体の問合せ件数が減少しました。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	3	5	1	3	0	5	3	5	1	1	2	10	39件

※各月の数字は利用件数

※行事に関する問合せや当団体に対する問合せは含んでいない



<成果や工夫したこと>

- ・ポスターの掲示やチラシの設置が多いことから、一定期間の掲示や設置を行ったものは取り外すといった循環を行いました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・市民からの問合せは平成 29 年度の 61 件から大きく減少しました。施設が開設した平成 25 年の 330 件が最も多く、そこから年々減少傾向にあります。施設の役割が明確になったことで問合せが減ったと考えられる半面、情報提供の機能があまり活かされていないとも言えます。今後は問合せ対応のあり方についても検討していきます。

○メディアなどの取材・掲載

施設の行事などについての広報や取材対応を行い、各種媒体にて紹介されました。

月日	内容	紹介方法
4月	春の自然観察会について読売新聞から問合せ	4月11日の読売新聞（北摂版）に掲載（告知）
4月14日（土）	自然ふしぎ発見クラブをFM千里が取材	「キッズのこりん隊」で生放送
	自然ふしぎ発見クラブをJ:COMが取材	4月のJ:COMチャンネル「デイリーニュース」で放送（日程不明）
6月15日（金）	サイエンスカフェの講師にJ:COMが取材	6月15日J:COMチャンネル「デイリーニュース」で放送（告知）
7月31日（火）	サイエンスカフェをJ:COMが取材	8月2日J:COMチャンネル「デイリーニュース」で放送
8月8日（水）	自然工作を朝日新聞社が取材（大阪本社社会部豊中支局長）	（その後の取扱い不明）
12月	自然ふしぎ発見クラブについてJ:COMから問合せ	12月のJ:COMチャンネル「デイリーニュース」で放送（告知・日程不明）
1月17日（金）	親子ぐるぐるフェスについて	TNN豊中報道2。に行事の詳細が単独のページで掲載（告知）
1月21日（月）	親子ぐるぐるフェスについて	TNN豊中報道2。に行事の詳細が単独のページで掲載

(3) 地球環境の保全等に関する講座等の開催及び啓発の実施

地球環境の保全等につなげるため、関連する内容の講座や普及啓発を行いました。また、これまで豊中市が主体となっていた啓発事業を引き継いで実施するとともに、これまでも当団体が市と協働で進めてきた自然環境啓発や循環型社会推進についても取り組みました。

①環境基本計画の啓発展示

当団体は施設の運営を通して、「豊中市環境基本計画」と「豊中アジェンダ 21」が共有する「望ましい環境像」の実現、および「豊中アジェンダ 21」の行動提案の達成をめざして事業を実施しており、環境基本計画の普及・啓発を目的とした展示を通して、市民の環境基本計画への理解を深めていくことをめざしました。

具体的には、環境基本計画の内容などについて、クイズ形式での展示を行い、解答用紙に記入・応募すると抽選で図書カードを進呈することにより、来場者の実施を促進しました。あわせて、環境基本計画に関するアンケートを実施し、市民の実態把握にも努めました。

期間	内容
10月20日(土)～ 12月7日(金)	クイズでわかる環境基本計画 パネル展示とクイズの実施 環境基本計画に関するアンケートの実施 参加者アンケート 33枚回収 ※アンケート回答者の中から抽選で10人に図書カード(500円)を進呈

※当初は11月18日(日)までの予定だったが、展示期間を延長して実施



<成果や工夫したこと>

- ・環境基本計画そのものを知ってもらうという、これまでになかった展示を実施できました。
- ・クイズ形式にすることで、単なるパネル展示ではない参加型の企画を実施できました。
- ・アンケートの集計を通して、来場者の環境基本計画に対する意識を把握することができました。

<これからの方向性(現状の課題を含む)>

- ・抽選で図書カードを進呈することにより、来場者アンケートと同様に多くの参加を見込んでいましたが、当初の想定よりも参加が伸び悩んだため、期間を延長して実施しました。
- ・今後は環境基本計画の分野別の展示や、環境基本計画に基づく各種施策の進捗状況などを紹介していくことが考えられます。

②地球温暖化防止講演会

地球温暖化防止の普及啓発を目的に、地球温暖化防止の講演会を開催しました。また、環境政策課と連携し、エコ市民賞の表彰式を同時開催しました。

日時	内容	参加者数	一時保育
2月17日(日) 14:15~15:30	第1部 第12回とよなかエコ市民賞2018表彰式・発表会 第2部 演劇公演「地球の約束」とトークセッション (公演：豊中市民劇場 劇団“萌”)	152人	1人

※参加者数は当団体の会員や講師、市職員などを含む

※時間や参加者数は第1部を含む



<成果や工夫したこと>

- ・より多くの人に親しみながら参加してもらうことをめざして、第2部は市民劇団による公演を実施したところ、通常よりもかなり多い参加を得ることができました。
- ・脚本を書き下ろしてもらい、豊中市の地球温暖化対策を盛り込んだ内容にできました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・地球温暖化防止を考えてもらう機会として、今後も参加しやすい内容の検討が必要です。

③暮らしやモノを考える講座

家庭の暮らしにつながる講座として、平成30年度は整理収納・みどりのカーテンの2つをテーマに実施しました。

整理収納は平成26年度からの継続として、自分の暮らしにおける生活用品の適量を把握し、モノの手放し方を学ぶ機会とし、参加者がサークルのように定期的に集まり、情報交換を通して主体的に学びあう場を提供しました。みどりのカーテンは、緑化による省エネの推進として、花とみどりの相談所や、豊中みどりの交流会などと連携し、ゴーヤの栽培に関する講習会を開催しました。

【整理収納サークル】

月日	参加者数	一時保育	月日	参加者数	一時保育	講師
4月24日(火)	6人	1人	10月24日(水)	14人	4人	尾山敬子さん (整理収納アドバイザー)
5月24日(木)	6人	1人	11月20日(火)	12人	2人	
7月18日(水)	5人		12月19日(水)	8人	1人	
8月28日(火)	6人	1人	1月22日(火)	6人		
9月20日(木)	5人	1人	2月14日(木)	7人		
			3月19日(火)	8人	2人	
			合計	83人	13人	

※いずれも 10:00～12:00（10月24日は開始30分前から新参加者へ事前説明）

※6月20日（水）は早朝の大雨警報発令により参加者が全員欠席のため開催を中止

※参加者数は講師を含む



【みどりのカーテン】

日時	内容	参加者数
5月29日（火）10:00～11:30	ゴーヤで緑のカーテン作り 講師：豊中みどりの交流会、豊中緑化リーダー会	15人

※参加者数は講師や市職員を含む



<成果や工夫したこと>

- ・整理収納サークルは下半期を6回連続で完結する講座とし、サークルの参加者が循環していく仕組みを試行しました。
- ・整理収納サークルの内容と参加者が期待する内容にミスマッチが起きやすいことから、下半期からは事前の来館による趣旨説明を行った上での参加受付としました。来館による参加受付でも参加希望者が減ることはなく、結果的に下半期の各回の参加者は、それまでよりも微増しました。
- ・一時保育を年間通して実施し、サークル参加者の継続的な参加につなげました。
- ・みどりのカーテンは、曾根駅周辺のお店の関係者も参加されるなど、取組みを広める一助とすることができました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・整理収納は、実施期間や参加ルールなどに確立したものがないため、引き続き試行していきます。
- ・みどりのカーテンは、同時期に市内各所で同様の講座が実施されているため、参加者にとって参加しやすい機会にしていくことが必要です。

④エコクッキング

平成 30 年度は主に大人の方を対象とし、食を通じた環境と健康について理解を深めました。講座を通して、食べ物の旬や地産地消、食べ物の健康効果や食生活、水やエネルギーを無駄にしない調理法、ごみを最小限にする買物や調理法、分別について学ぶ機会としました。

日時	内容	講師	場所	参加者数
10月31日(水) 10:00~12:45	カンタンで美味しい ご飯のお供作り	mari さん (ENJOY♡こどもご はん副代表)	中央公民館	14人

※参加者数は当団体の会員や講師などを含む



<成果や工夫したこと>

- ・地域で活動する団体の方を講師とし、企画から相談して進めました。講師は市民向けの講座が初めてであったため、不慣れな部分は企画からサポートしつつ進めました。
- ・講師が子どもの欠食問題の改善に取り組んでいることから、子育て世代をターゲットとし、手軽に栄養をとれるごはんのお伴をテーマに実施しました。
- ・とよびー農園（緑と食品のリサイクルプラザ内）の野菜を活用することで、豊中市のごみや食の循環の説明にもつなげました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・子育て世代の参加が少なかったことから、今後も同様の対象者に実施する際は、一時保育をつけるなどの工夫が必要です。

⑤リサイクル作品展

小学生が夏休み中の自由研究などで作成したリサイクル工作の作品を募集・展示し、豊中市と連携して優秀作品を表彰しました。

期間	内容
7月24日(火)~8月4日(土)	作品の募集(11件)
8月8日(水)~19日(日)	作品の展示(入賞5件)



<成果や工夫したこと>

- ・ファンクラブのジュニアメンバーに案内を送付するなどしたため、新たな参加者を得ることができました。
- ・子どもたちの工夫を凝らした作品を展示することで、施設に来場した大人の関心も引き付ける機会となっています。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・これまでに応募の多かった小学校からの参加が少なかったこともあり、全体としての参加が激減しました。今後は広報を強化することが必須です。

⑥自然観察会

地域の自然環境に親しんでもらうため、豊中市内の自然が残された場所で自然観察会を開催しました。

実施日	内容	場所	参加者数		スタッフ数
			おとな	子ども	
4月17日（火）	春の自然観察会「千里川の散策と遺跡見学」	千里川～勝部遺跡～田能遺跡	12人	0人	10人
7月21日（土）	箕面川の水生物観察会	箕面川中流域	11人	15人	11人
9月21日（金）	秋の夜の鳴く虫観察会	服部緑地	9人	13人	9人
2月10日（日）	冬の野鳥観察会	服部緑地	22人	5人	10人
合計	4回		54人	33人	40人

※当団体の自然部会が実施（スタッフ数は自然部会の担当者の人数）



<成果や工夫したこと>

- ・春の自然観察会はハイキング形式で、これまでにあまりなかったエリアで開催しました。
- ・9月上旬の台風21号の通過により、服部緑地でも倒木などの多数の被害があり、開催が危ぶまれましたが、現地の下見を行い、安全が確認できたので実施することとしました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・前年度と比べて全体の参加者が減少しました。天候に左右される影響があるものの、引き続き、広報や内容の充実を検討していきます。

⑦自然学習講座

豊中の自然環境の現状や保全についての理解を深めるため、専門家を講師に講座を開催しました。

実施日	テーマ	講師	場所	参加者数	スタッフ数
6月24日(日)	その地域の自然の達人トコロジストになろう	箱田敦只さん((公財)日本野鳥の会 普及室室長代理)	中央公民館	22人	2人
9月23日(日)	生き物との共生を具体化するためのアニマルパスウェイ	湊秋作さん(関西学院大学教育学部教授)	中央公民館	18人	2人
3月24日(日)	都市の生物多様性の拠点ビオトープ	佐藤亮さん(NPO法人豊島北ビオトープクラブ理事長)	中央公民館	22人	2人
合計	3回			62人	6人

※当団体の自然部会が実施(スタッフ数は自然部会の担当者の人数)



<成果や工夫したこと>

- ・トコロジストやアニマルパスウェイなど、豊中ではあまりなじみのなかったテーマについて、広く学ぶ機会として実施しました。
- ・一方で、豊中でも以前からなじみのあるビオトープも取り上げることで、ビオトープを取り巻く現状などについて、参加者と共有する機会となりました。

<これからの方向性(現状の課題を含む)>

- ・参加者数は前年度から微減しました。今後も多くの参加を得るために、テーマの設定、開催時期などについて検討していきます。

⑧自然ふしぎ発見クラブ

豊中の自然にふれあい、体験できる機会として、5歳～小学生とその保護者を対象に行いました。

実施日	テーマ・内容	場所	参加者数		スタッフ数
			子ども	おとな	
4月14日(土)	竹のふしぎ発見とタケノコ掘りに挑戦	千里中央公園	16人	15人	10人
4月21日(土)		千里緑地	36人	33人	9人
5月26日(土)	見て、触って、作って、遊ぼう	豊島公園	5人	6人	2人
7月30日(月)	公園でセミの羽化を見てみませんか	千里中央公園	12人	10人	3人
9月22日(土)	バッタなど秋の虫観察会	服部緑地	27人	17人	9人
1月6日(日)	冬の草木と七草がゆの試食	くらしかんほか	7人	6人	6人
3月16日(土)	春の野草観察とヨモギだんご作り	くらしかんほか	5人	5人	6人
合計	6回		108人	92人	45人

※当団体の自然部会が実施（スタッフ数は自然部会の担当者の人数）

※7月30日開催分は、台風の影響により7月28日（土）から延期

※9月22日開催分は、「服部緑地の自然を育てる会」の後援



<成果や工夫したこと>

- ・タケノコは千里中央公園で盗掘などの懸念により、観察できるものがほとんど見つからなかったことから、都合が可能な方には場所と日程を変更した場所に参加してもらいました。
- ・春の野草を使った内容が過去に好評であったことなどから、近年では実施していなかったヨモギだんご作りを盛り込みました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・台風の影響で開催を延期したことから、セミの羽化の参加者が半数以下になってしまいました。
- ・豊島公園や大門公園など、まちなかにある公園での企画の参加者が少ない傾向にあります。身近な自然の魅力についても、広報などでPRしていくことが考えられます。

⑨自然環境の保全活動

平成30年度からの新たな企画として、豊中市内に残された豊かな自然環境を残していくため、残された自然を歩く【豊中の里山探訪】や、【豊中の自然を守る】活動の体験を実施し、自然環境の保全に対する理解を深めました。

【豊中の里山探訪】

実施日	内容	場所	参加者数	スタッフ数
6月16日(土)	第3千里緑地から島熊山窯跡	千里中央～千里緑地(新千里南町)	20人	2人
10月20日(土)	大阪大学キャンパス 待兼山古墳群を訪ねて	大阪大学豊中キャンパス、待兼山、総合学術博物館	22人	2人
合計	2回		42人	4人



【豊中の自然を守る】

実施日	内容	場所	参加者数	スタッフ数
11月14日(水)	カシノナガキクイムシ被害木調査・ネット被覆体験	千里緑地(新千里北町)	2人	4人
12月1日(土)			4人	4人
合計	2回		6人	8人

<成果や工夫したこと>

- ・カシノナガキクイムシ被害木調査・ネット被覆体験は初めての試みでしたが、事業所で樹木の手入れをされている方、行政関係に就職が決まった大学生、自然に関心のある親子など、多様な方に参加していただく機会となりました。
- ・9月上旬の台風21号の通過により、待兼山でも倒木などの多数の被害があり、開催が危ぶまれましたが、事前に現地の確認を行い、安全な範囲で実施しました。

<これからの方向性(現状の課題を含む)>

- ・里山探訪のように、ウォークと観察を兼ねた行事は人気が高いことから、より多くの方に豊中の自然を知っていただく機会として継続していきます。

⑩制服・学用品のリユース

平成29年度に子ども服の交換をはじめとした衣服のリユースにつながる取組みを行っている、または関心のある団体による意見交換を行い、豊中市内で市民活動に取り組む有志などが「おさがりの会」を立ち上げました。そこで、おさがりの会と連携し、まだ使える制服や学用品を施設で回収し、必要とする人へのマッチングを行いました。

日時	内容
5月2日(水)～ 31日(木)	制服・学用品の回収 ランドセル、制服・体操服、ピアノカ・リコーダー、文具など約120点
12月11日(火)～ 1月13日(日)	制服・学用品の回収 ランドセル、制服・体操服、楽器、文具など約80点
1月20日(日) 13:00～15:30	制服・学用品の販売(親子ぐるぐるフェス) ランドセル、制服・体操服、楽器、文具など100点以上



<成果や工夫したこと>

- ・制服の循環する季節などを考慮し、回収期間を2回設けました。おさがりの会のメンバーや施設での広報を通じて、主要なものだけで約200点の物品を集めることができました。
- ・親子ぐるぐるフェスにおいて、回収した物品を希望する市民へ非常に安価で提供しました。
- ・生活支援の関係者を通じて、ランドセルを必要としている方へ個別に提供するという対応を行いました。

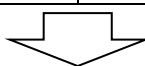
<これからの方向性(現状の課題を含む)>

- ・回収してから提供までの制服をはじめとした物品の保管・管理が必要ということがわかりました。おさがりの会と連携し、適切な管理方法などを検討していきます。
- ・制服や学用品を本当に必要としている人にマッチングできるよう、引き続き方策を検討していくことが必要です。

⑪施設間連携スタンプラリー

豊中市内で指定管理等により運営している各分野の施設と連携し、施設間の相乗効果を目的に、施設間でのスタンプラリーを実施しました。「ESD とよなかクイズラリー」と題して、SDGsを共通テーマにリレー形式で実施することとしました。なお、内容や当日の運営では、当団体も参画しているESDとよなか連絡会議の協力を得ました。

日時	行事名	場所	参加者数
9月8日(土) 12:00～16:00	とよなか国際交流フェスタ ライブラリーまつり2018など	とよなか国際交流センター、とよなか男女共同参画推進センターなど	約200人



9月22日(土) 13:00～15:30	エンカルマーケット	環境交流センター	4人
10月20日(土) 10:00～14:00	外国人のための防災フェア	豊中人権まちづくりセンター	0人



<成果や工夫したこと>

- ・ESD とよなか連絡会議の場で内容を検討し、参加団体の意見を集約して企画を行うとともに、当日の運営も各団体が協力・連携して実施しました。
- ・エシカルマーケットや外国人のための防災フェアにスタンプラリーの用紙をもってきた人は非常に少なかったですが、SDGsの各テーマにあわせた豊中につわるクイズを作成・配布したことで、各会場場でSDGsについて広くPRする機会となりました。
- ・スタンプラリーの景品は、平成29年度のESDセミナー（ちゃんぷる屋台村）の残りを活用しました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・スタンプラリーを通じて、一般の参加者が各施設を回ることがほとんど実現しなかったため、引き続き効果的な方法を検討していきます。

⑫ESDセミナー

持続可能な地域づくりをめざして、楽しみながら学びにつなげる連続講座を小学生対象に実施しました。なお、これまでの経過を踏まえて、とよなかESDネットワークと連携し、ESDとよなか連絡会議をはじめとする各団体の協力を得て開催しました。

日時	内容	場所	参加者数
3月2日（土） 10:00～15:30	とよなか未来探検隊	蛍池人権まちづくりセンター	25人
3月9日（土） 10:00～15:30			18人
3月9日（土） 13:00～15:00	2030年とよなかの未来を救え		102人
合計	2回		127人

※参加者数は当団体の会員や出店者、市職員などを含む

※3月9日の参加者数18人と102人は重複している



<成果や工夫したこと>

- ・ESD とよなか連絡会議との連携として、連絡会議に参加している蛍池人権まちづくりセンターを会場として実施しました。
- ・とよなか未来探検隊の初日は、ぴったんこ隊 mini で連携している大阪大学環境サークル GECS のスキルアップも兼ねて、GECS のメンバーも一緒に参加して実施しました。
- ・2030 年とよなかの未来を救えは、蛍池周辺の市民団体や高校、エシカルに関心がある大阪市立大学の大学生サークル、ESD とよなか連絡会議の参加団体の協力などを得て、ブース出展の形で一般の当日参加も得ながら実施しました。
- ・参加者の小学生は 2 日間の学びを通して出し物を作り、2030 年とよなかの未来を救えで内容を実践するプログラムとし、ブース出展の各団体が参加者のプログラムを見守りました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・ESD とよなか連絡会議との連携により、引き続き各団体の長をを活かした内容を進めていきます。
- ・今回の開催をきっかけに、蛍池人権まちづくりセンターとは別の事業でも連携していく可能性が考えられます。

⑬キッズクラブ

「ぴったんこ隊 mini」と題して、小学 1 年生～4 年生を対象に、世界や地域の環境を考えることをテーマとした、参加・体験型の連続講座を実施しました。講座は大阪大学の環境サークル GECS が主体となってプログラムを実施し、施設で広報や参加者、プログラム先との調整などを担いました。また、講座の開催を通じて、大学生の環境活動の場を提供し、大学生の成長を支援しました。

さらに、過去の「ぴったんこ隊 mini」の参加者を対象に、単発の同窓会企画も実施しました。

日時	内容	場所	参加者数
7月22日(日) 14:00～16:00	夏のエコな暮らしを学ぼう	環境交流センター	31人
8月21日(火) 9:00～16:30	水のふるさと琵琶湖にいこう	野洲市菖蒲漁港	30人
8月26日(日) 14:00～16:00	原っぱであそぼう	天竺のはらっぱ	31人
10月14日(日) 14:00～16:00	夏の生き物について学ぼう	環境交流センター	30人
3月28日(木) 9:30～16:00	ぴったんこ隊 mini 同窓会	吹田市資源リサイクルセンター	25人
合計	5回		147人

※参加者数はスタッフを含む

※9月30日(日)は台風接近のため、10月14日開催に延期

※小学生の参加登録者数は20人、同窓会は13人



<成果や工夫したこと>

- ・平成 29 年度のぴったんこ隊 mini の状況を踏まえて、平成 30 年度は当団体が主体となり、琵琶湖でのシジミ採りを入れるなど、内容の充実を図りました。
- ・屋外での実施に際しては、開催前後に保護者へ手紙を渡すとともに、後日に当日の様子をブログで報告しました。
- ・GECS の世代交代により、下半期は連続講座を実施せず、かわりに単発の同窓会を企画してもらうことで、GECS のメンバーにとっても企画を実践する学び機会としました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・プログラムの質の維持や学生の学びの場として、大学生のプログラムに対するていねいな助言や支援の必要があります。

⑭サイエンスカフェ

科学・化学実験や科学・化学にまつわる話題を通して、環境問題や生活とのつながりについて考える場を作ります。多様な世代が考える機会を作るため、子ども対象と大人対象の両方を実施しました。

日時	内容	講師	参加者数	一時保育
7月31日(火) 13:00~15:00	水と空気で作る動くおもちゃを作ろう	当銀美奈子さん(プラスチック造形作家)	34人	—
11月29日(木) 10:00~12:00	ナチュラル素材で大掃除	黒河内繁美さん(Wakka)	14人	7人
合計	2回		48人	7人

※参加者数は講師や見学の保護者(7月31日)を含む



<成果や工夫したこと>

- ・夏休みの回は小中学生を対象とし、夏休みの宿題にもつながられる学習としました。
- ・夏休みの回は、保護者の同伴歓迎としたことで、保護者も多くの参加があり、子どもだけでなく保護者も一緒に体験できる機会としました。
- ・実験に使うペットボトルは炭酸飲料用と決まっていたことから、施設のペットボトル回収の場所に貼り紙をして、ペットボトルを持参する来場者にも協力を呼びかけました。
- ・ナチュラルクリーニングの回は、一時保育を広く PR したことから、非常に多くの一時保育の利用があり、平成 29 年度に続き、子育て世代の参加を得ることができました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・夏休みの回は、連続講座にして屋外に出かけるなど、内容の拡充が考えられます。
- ・大人向けにはナチュラルクリーニングは数年連続で実施したため、違うテーマに変更することも検討していきます。

⑮持続可能な消費に関する講座

誰しも身近な衣・食を通して持続可能な消費を身近に考え、自分の消費行動が環境や社会に影響を与えることを自覚するとともに、環境や社会に配慮した商品選択ができる、グリーンコンシューマーを実践するための講座として、平成 30 年度はパーム油をテーマに実施しました。

日時	内容	参加者数
8月10日（金） 13:30～15:30	ポテトチップスとオランウータンの森 講師：石崎雄一郎さん（ウータン・森と生活を考える会）	17人

※参加者数は講師を含む



<成果や工夫したこと>

- ・パーム油をめぐる社会的・環境的な現状を学ぶため、生産地の紹介映像の視聴、講師による座学、クイズやロールプレイなどのワークを組み合わせ構成しました。
- ・パーム油をテーマに取り上げることで、新たな参加者を得ることができました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・テーマが参加者にとって身近な問題となるため、今後も生活に密着したものを幅広く題材に取り上げることを検討します。
- ・特定のテーマだけでは参加者の確保が難しいため、他の取組みとの組み合わせなどを行うことが考えられます。

⑯わがまち探検マップコンクール

わがまち探検マップコンクールと題して、小学生を対象に、地域のまち歩きを通して地域資源を見つけ、個人、またはグループでマップにまとめて展示し、利用者の投票などにより優秀作品を選出する企画案です。マップ作りを通してわかったことや、こんなまちになったらいいなと思うことを提案してもらうとともに、小学生がまちの自然や歴史などに気づき、地域への愛着と関心を深める機会をめざして、平成 30 年度は情報収集や仕組みの検討を行いました。

<成果や工夫したこと>

- ・岐阜市で同様の先行事例があり、開催の視察などを検討していましたが、現地でこの事業が終了となったため、資料や情報の収集に留まりました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・先行事例で取組みが終了するなど、事業の持続可能性に課題があると考えられることから、今後の方針を再度検討していきます。

(4) 地球環境の保全等に関する会議、研修、催し等へのセンターの施設の提供

展示スペースおよびその周辺スペースでの展示などを行いました。また、大学生などを対象に、学生のインターンシップ受け入れや、環境活動に関する支援を行いました。

①施設でのイベント掲示板の設置

施設を利用して市民や団体が実施する環境イベント等について、チラシ等を貼ることができる専用の掲示板を設置して、来場者への PR を促進しました。



<成果や工夫したこと>

- ・来場者にとって見やすい設置場所となるよう、置き場所を変えてみるなどの試行を行いました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・団体が施設を利用して環境イベントを実施する際、チラシ等の持参が少ないため、掲示板の活用が限られました。貸室手続きの際などにもっと PR をしていきます。

②コピー、大型プリンター、印刷機、紙折り機の利用

来場者がコピーやポスターの出力をできるようにすることで、打合せや貸室などの利用を促進するとともに、活動の一環で作成したパネルや横断幕などの出力をサポートしました。平成 30 年度からは新たに紙折り機を導入し、希望者に利用を無料で提供しました。

なお、利用件数は平成 29 年度と比べて、コピーが 41%増、大型プリンターが 22%減、印刷機は±0%でした。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
コピー	23	16	9	9	10	9	2	14	12	6	7	16	133 件
大型プリンタ	3	3	1	2	2	3	6	3	0	7	1	7	38 件
印刷機	5	2	2	6	2	2	1	5	4	2	2	7	40 件

※各月の数字は利用件数



<成果や工夫したこと>

- ・職員の業務の軽減を目的に導入した紙折り機を、市民や団体にも利用できるようにしたところ、印刷機の利用者を中心に一定程度の利用がありました。
- ・コピーを目的とした来場者が増えており、施設で提供できるサービスとして定着しつつあります。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・一時期に比べて、大型プリンターの利用が減少していることから、利用をもっと PR していくことを検討します。

③打合せなどに伴う物品の貸出し

ロビーや会議室で打合せや作業を行う際、円滑に進めることができるように、関連する物品などを提供しました。傘は「貸し傘」として「そね 21 の会」と連携して取り組みました。

- ・裁断機
- ・ラミネーター（ラミネートフィルムは希望者に有料）
- ・貸傘
- ・リユースカップ（会議室の利用時など）



<成果や工夫したこと>

- ・裁断機の利用を目的に来場する団体などもあり、活動の支援の一環となりつつあります。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・貸傘やリユースカップの利用は一時期よりも減っているため、貸出しをもっと PR していくことを検討します。

(5) その他

①回収拠点

リユース・リサイクルのための回収拠点として、以下の物品を回収しました。

平成 30 年度からは豊中市が回収ボックスを設置し、新たに蛍光灯・電池類の回収を始めました。

回収品	対象	対応
ペットボトル	主に他へ提供する物品	豊中市の委託先が週 1 回程度回収 (6 月から回収頻度が週 2 回へ増加)
インクカートリッジ		豊中市のインクカートリッジ里帰りプロジェクトとして実施 5 月 15 日 (火)、1 月 16 日 (水) に各 1 箱分を回収先へ送付
使用済み小型家電		豊中市が週 1 回程度回収
蛍光灯・電池類		4 月 3 日から開始 豊中市が週 1 回程度回収
ベルマーク		回収したベルマークを地域へ提供 5 月 17 日 (木)、9 月 20 日 (木) に南桜塚小 PTA へ提供
傘	主に当施設で活用する物品	貸し傘用として利用 3 月 26 日 (火) に貸傘用として「そね 21 の会」へ提供



<成果や工夫したこと>

- ・ペットボトルの回収量が増えており、毎週回収前には回収ボックスに入らなくなっていたため、6 月からは週 2 回の回収へと増加してもらいました。
- ・平成 29 年度途中でベルマークを南桜塚小 PTA へ提供することとしましたが、平成 30 年度に南桜塚小 PTA から定期的にベルマークを回収に来ていただき、仕組みとして定着することができました。

<これからの方向性 (現状の課題を含む) >

- ・傘の回収について、市民からの提供分だけではなく、施設の忘れ物で、所定の保管期間を過ぎたものについても活用できるかどうかを検討していきます。

②不用品交換コミュニティボードの運営

平成 24 年度までリサイクル交流センターが実施していた不用品交換コミュニティボードを引き継ぎ、施設内での掲示とインターネットでの掲載を行いました。また、近隣で同様の仕組みを運営している施設の情報を、不用品交換コミュニティボードの利用者に提供しました。

【「譲りたい」に関する応募・結果】

	掲出件数	受付	成立	期限切れ	辞退	不成立	交渉中
4月分	6件	4件	2件	0件	0件	0件	1件
5月分	5件	1件	1件	0件	0件	1件	1件
6月分	8件	4件	0件	3件	0件	0件	1件
7月分	8件	3件	0件	3件	1件	0件	1件
8月分	6件	2件	0件	0件	2件	0件	1件
9月分	5件	1件	0件	0件	3件	1件	1件
10月分	2件	0件	0件	0件	0件	0件	1件
11月分	2件	0件	0件	0件	0件	1件	0件
12月分	1件	0件	0件	1件	0件	0件	0件
1月分	1件	1件	0件	0件	0件	0件	0件
2月分	2件	1件	0件	0件	0件	0件	0件
3月分	3件	1件	0件	0件	0件	0件	0件
年度通算	20件	18件	3件	7件	6件	3件	0件

※平成 29 年度から繰り越した掲出 2 件、平成 31 年度へ繰り越した掲出 3 件

【「譲ってほしい」に関する応募・結果】

	掲出件数	受付	成立	期限切れ	辞退	不成立	交渉中
4月分	7件	1件	0件	0件	0件	0件	0件
5月分	15件	8件	0件	6件	1件	0件	0件
6月分	8件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
7月分	10件	2件	2件	0件	0件	0件	0件
8月分	8件	0件	0件	7件	0件	0件	0件
9月分	4件	3件	0件	0件	0件	0件	2件
10月分	6件	2件	1件	0件	0件	1件	0件
11月分	4件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
12月分	7件	3件	0件	0件	0件	0件	0件
1月分	8件	1件	0件	4件	0件	0件	0件
2月分	4件	0件	0件	0件	0件	0件	0件
3月分	4件	0件	0件	3件	0件	0件	0件
年度通算	26件	20件	3件	20件	1件	1件	0件

※平成 29 年度から繰り越した掲出 6 件、平成 31 年度へ繰り越した掲出 1 件



<成果や工夫したこと>

- ・適切に運営をしましたが、特記すべき事項は特にありません。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・受付件数が低い位置で横ばいとなっており、広報とよなかで取組みが紹介された平成 27 年度の件数（譲りたいが 54 件、譲ってほしいが 37 件）と比べて激減しています。広報とよなかへの掲載をはじめとした広報手段を検討していきます。
- ・家庭で不用になった物品を引き取ってほしいという問合せが多く、引取りのニーズが高いことがわかります。不用品交換コミュニティボードに関わらず、そうした物品の活用について、検討していくことも必要と思われれます。

③パソコンの設置

平成 25 年度の開設当初から、ロビーにパソコン 1 台を設置し、来場者がインターネット検索や資料作成などに利用できるようにしていましたが、平成 28 年度中にパソコンに不具合が生じ、修理等のため、以降の使用を中止していました。平成 28 年度中から、パソコン設置の必要性について議論が行われており、平成 29 年度は設置をせずに状況を見守っていました。

平成 30 年度に指定管理の第 2 期が開始し、引き続きパソコンの設置が仕様書に盛り込まれたことから、6 月 7 日から通常通りの利用を再開し、来場者がインターネット検索や資料作成、ポスター出力の際などに利用できるようにしました。



<成果や工夫したこと>

- ・平成 27 年度に設定した緩やかなルールに基づき、日常的に利用する来場者に対しての声かけなどを行いました。

<これからの方向性（現状の課題を含む）>

- ・日常的に利用する方がいる一方で、環境目的の情報検索という使用目的は、多くの来場者にとっては必要とされていない現状です。施設における環境情報のあり方と、パソコンの設置について、検討をしていくことが必要と考えられます。

4. 施設の利用状況

施設の年間の来場者数は18,458人で、前年度の17,306人から1,152人増加しました。平成28年度の19,083人には及びませんが、最高評価サービス水準の18,000人を超え、12,000人という目標値と比べても約154%と、安定した来場者数が得られています。また、環境交流センター開設前の平成24年度と比べると、リサイクル交流センターが6,621人、環境情報サロンが4,857人の来場者数であったことから、平成24年度のリサイクル交流センターと比べて約279%、両施設の合計と比べて約161%となっています。

一方で、会議室等の稼働率は前年度の68.6%から67.4%へと微減しました。展示スペースは利用増(72.1%→76.1%)でしたが、会議室2は利用減(67.2%→60.5%)でした。なお、会議室等の申込状況と利用件数は、どちらも約86%(申込状況612件→524件、利用件数563件→486件)で、どちらも15%近い減少となりました。

①来場者数

単位：人	一般		会議室等利用				合計	(参考) 昨年度
			環境目的		環境目的以外			
	男性	女性	男性	女性	男性	女性		
4月	298	477	201	411	78	64	1,529	1,421
5月	259	548	181	220	205	340	1,753	1,121
6月	237	557	193	339	3	24	1,353	1,662
7月	299	565	243	186	9	52	1,354	1,434
8月	396	567	182	339	9	5	1,498	1,780
9月	271	495	260	332	230	307	1,895	1,511
10月	325	639	211	325	3	16	1,519	1,411
11月	289	519	182	397	27	8	1,422	1,224
12月	267	556	232	422	0	3	1,480	1,348
1月	308	469	224	365	0	23	1,389	1,322
2月	317	473	400	525	1	45	1,761	1,760
3月	387	495	261	321	11	30	1,505	1,312
年度通算	3,653	6,360	2,770	4,182	576	917	18,458	17,306

②会議室等の稼働率

	会議室1	会議室2	展示 スペース	施設全体	(参考) 前年同月
4月	65.4%	57.7%	26.9%	50.0%	55.1%
5月	69.2%	65.4%	11.5%	48.7%	69.2%
6月	84.6%	69.2%	96.2%	83.3%	74.4%
7月	61.5%	57.7%	96.2%	71.8%	75.6%
8月	48.1%	51.9%	66.7%	55.6%	75.3%
9月	62.5%	66.7%	100.0%	76.4%	74.4%
10月	50.0%	50.0%	96.2%	65.4%	66.7%
11月	80.8%	65.4%	100.0%	82.1%	48.7%
12月	66.7%	45.8%	70.8%	61.1%	63.9%

1月	50.0%	62.5%	54.2%	55.6%	68.1%
2月	83.3%	66.7%	100.0%	83.3%	73.6%
3月	66.7%	66.7%	96.3%	76.5%	77.8%
年度通算	65.7%	60.5%	76.1%	67.4%	68.6%

③会議室等の申込状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
合計	52	68	38	26	45	47	58	29	37	57	39	28	524件
貸室	52	68	38	26	41	45	57	27	37	55	39	27	512件
指定	7	20	9	12	4	11	14	5	8	24	10	5	129件
自主	0	2	1	0	0	0	3	0	2	0	0	0	8件
環境	33	39	24	14	31	32	37	21	24	29	23	20	327件
環境外	12	7	4	0	6	2	3	1	3	2	6	2	48件
備品	19	29	16	14	25	23	16	17	19	31	14	13	236件
指定	3	12	2	9	0	6	6	3	3	14	3	3	64件
自主	0	0	1	0	0	0	2	0	2	0	0	0	5件
環境	14	16	11	5	22	15	7	12	14	15	11	9	151件
環境外	2	1	2	0	3	2	1	2	0	2	0	1	16件
キャンセル	2	0	2	3	3	5	4	1	1	1	0	6	28件

※合計は、備品などの追加手続きも含んだ承認の件数

※キャンセルのうち、使用料の還付請求は1件

④会議室等の利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
合計	45	47	47	34	34	42	38	43	37	31	41	47	486件
貸室	45	47	47	34	34	42	38	43	37	31	41	47	486件
指定	7	8	12	5	10	9	10	6	13	11	18	10	119件
自主	0	1	2	0	0	0	2	1	2	0	0	0	8件
環境	29	28	27	26	22	29	24	33	21	19	20	31	309件
環境外	9	10	6	3	2	4	2	3	1	1	3	6	50件
備品	14	18	19	16	18	18	16	18	17	14	20	20	208件
指定	3	4	5	3	6	4	5	3	6	5	9	5	58件
自主	0	0	1	0	0	0	1	1	2	0	0	0	5件
環境	11	11	13	11	11	12	8	12	9	8	10	14	130件
環境外	0	3	0	2	1	2	2	2	0	1	1	1	15件

※追加手続きの有無に関わらず、1件とカウント

⑤使用料（利用料金）の収入の状況

月	合計		納付分		庁内振替	
	件数	金額（円）	件数	金額（円）	件数	金額（円）
4月	12	39,100	12	39,100	0	0
5月	7	9,030	7	9,030	0	0
6月	4	19,650	4	19,650	0	0
7月	0	0	0	0	0	0
8月	6	46,530	6	46,530	0	0
9月	2	11,500	2	11,500	0	0
10月	3	4,600	3	4,600	0	0
11月	1	900	1	900	0	0
12月	4	9,080	4	9,080	0	0
1月	3	12,160	3	12,160	1	1,170
2月	5	6,360	5	6,360	1	1,430
3月	4	2,910	4	2,910	0	0
4月	1	1,200	1	1,200	0	0
合計	54	165,620	52	163,020	2	2,600

※備品等の追加のみの場合も1件と数えている

※3月31日入金分を平成30年度分として4月2日に入金したため、一覧の最後に4月の欄がある

※還付1件（960円）があったため、平成30年度の決算額は164,660円

⑥施設外での実施に伴う参加者数

内容	参加者数	備考
身近な生き物調査	58人	調査活動（施設外実施分のみ）
エコクッキング	14人	1回
自然観察会	87人	4回
自然学習講座	62人	3回
自然ふしぎ発見クラブ	200人	7回
自然環境の保全活動	48人	4回
施設間連携スタンプラリー	200人	2回（施設外実施分のみ）
ESDセミナー	127人	2回
キッズクラブ	86人	3回（施設外実施分のみ）
合計	882人	

※内容はすべて「3. 管理運営業務の実施状況」に記載

5. 管理運営業務に係る経費の収支状況

平成 30 年度 豊中市立環境交流センター指定管理業務 収支決算書
平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

(単位:円)

収入						
項目	合計	1. 交流の場の提供	2. 情報収集・提供	3. 講座の開催	4. その他	施設管理
指定管理委託料	15,606,000					
事業収入	364,698	82,100	0	122,000	0	160,598
収入合計	15,970,698					
支出						
科目	合計	1. 交流の場の提供	2. 情報収集・提供	3. 講座の開催	4. その他	施設管理
人件費						
賃金手当	8,866,746					
通勤交通費	270,740					
法定福利費	1,393,650					
退職金共済制度掛金	255,000					
福利厚生費	33,210					
職員研修費	10,820					
賃金振込手数料	23,652					
人件費計	10,853,818					
事業費						
外注費	1,275,020	0	0	0	0	1,275,020
備品費	0	0	0	0	0	0
図書費	35,766	0	22,766	13,000	0	0
印刷費	261,960	20,865	58,520	47,355	325	134,895
通信運搬費	387,548	64,158	6,505	31,352	2,420	283,113
消耗品費	356,108	33,456	24,632	39,632	5,000	253,388
旅費交通費	146,247	15,800	63,000	63,547	3,900	0
諸謝金	522,200	62,300	0	459,900	0	0
保険料	22,944	0	600	16,830	0	5,514
賃借料	369,210	0	0	4,650	0	364,560
光熱水費	1,027,656	0	0	0	0	1,027,656
租税公課	1,200	0	0	0	0	1,200
雑費	82,753	39,764	2,628	31,465	2,740	6,156
事業費計	4,488,612	236,343	178,651	707,731	14,385	3,351,502
支出小計	15,342,430					
消費税及び地方消費税	591,508					
収支差額	36,760					

(参考) 施設管理の費用内訳

内容	科目	金額	備考
電話代	通信運搬費	175,432	
阪急緊急用専用回線使用料	通信運搬費	32,460	
インターネット利用料	通信運搬費	74,509	プロバイダ、ドメイン
郵便代	通信運搬費	712	
リース代	賃借料	364,560	複合機、大型プリンター、紙折機 印刷機（再リース）
コピー代	印刷費	134,895	
消耗品	消耗品費	253,388	
修繕費用	外注費	203,040	給湯室 水道漏水修繕 エントランス 折り上げ天井照明修繕 駐輪場 門扉の受け金具修繕
電気代	光熱水費	997,843	
水道代	光熱水費	29,813	
保険	保険代	5,514	賠償責任保険
印紙代等	租税公課	1,200	印紙代
自転車処分手数料	雑費	1,080	自転車店引取り
清掃委託	外注費	345,708	
ごみ処理委託	外注費	26,432	
機械警備委託	外注費	207,360	
消防用設備保守点検	外注費	64,800	
空調設備保守点検	外注費	313,200	
自動扉保守点検	外注費	114,480	
振込手数料（外注費他）	雑費	5,076	
合計		3,351,502	

6. 自主事業の実施状況

(1) 施設の活用や事業への参加

①飲食物の販売

来場者が気軽に利用できるように、希望者に対して飲料やおやつなどを有料で提供しました。また、この飲食物の提供を通して、食べ物や飲み物といった身近なものから環境について考えてもらう機会としました。

飲料は環境に配慮したリユースびんの冷たいものと、リユースカップを利用したセルフサービスの温かいものとし、コーヒーと紅茶は有機栽培フェアトレードのものを提供しました。おやつは豊中市小売商業団体連合会や豊中市内の福祉作業所と連携し、豊中のお店の商品や添加物の少ないものなどを提供しました。

②常設での物品販売

当団体は地球環境を守るとよなか市民行動計画「豊中アジェンダ 21」を推進する活動に取り組んでおり、活動に関連する物品を施設で希望者に常設販売しました。具体的には、竹炭・竹酢液・竹製品、とよっぴー、とよっぴーで育てた豊中産の野菜（不定期）、機密書類リサイクルのトイレットペーパー、各種冊子などで、これらの販売を通して「豊中アジェンダ 21」の普及・促進に努めました。

また、施設の来場者の利便性向上に資する物品についても、希望者に常設販売しました。具体的には、布ナプキン、エコたわしなどで、これらは地域の団体と連携し、各団体が作ったものを取り扱いました。

③物品の回収

リユース・リサイクルの一環として、使用済み切手・未使用切手・書き損じハガキについて、施設で回収しました。回収した物品は他への売却等を行い、売却費用は「豊中アジェンダ 21」の普及・促進に使用していますが、平成 30 年度は売却等を行いませんでした。

④リユースバザーへの参加

指定管理事業として実施するリユースバザーに、当団体としても出店しました。当団体では、会員の家庭で使わなくなった衣服や生活用品を集めて安く販売することで、指定管理者の組織としてもリユースに努めました。なお、平成 30 年度はリユースバザーが 6 回行われましたが、そのうち 1 回に出店しました。

⑤地域こだわりマルシェ&野菜市場への参加

指定管理事業として実施する地域こだわりマルシェ&野菜市場に当団体として出店し、とよっぴーで育てた豊中産の野菜や、竹炭・竹酢液・竹製品などを販売しました。販売時に購入者との交流を通して、地産地消および循環型社会の推進に努めました。なお、平成 30 年度は地域こだわりマルシェ&野菜市場が毎月（計 11 回）行われましたが、会員が中心となり、すべての開催で出店しました。

(2) 全体活動

①学習会の開催

平成 30 年度中に「第 3 次豊中アジェンダ 21」が策定されたことに伴い、同計画に書かれた取組みの展開や推進組織の発展について、学習会の開催を計画に盛り込んでいましたが、実施には至りませんでした。

②環境展の展示

11月16日（金）、17日（土）に豊島体育館で開催する「とよなか市民環境展 2018」について、会場周辺以外での広報手段の1つとして、開催前の期間に施設で展示を行い、環境展について広くPRすることを計画に盛り込んでいましたが、実施には至りませんでした。

（3）部会・プロジェクト活動

①わいわいクラブ【生活部会】

地球温暖化防止や省資源・循環型社会の推進の一環として、市民が気軽に参加・体験できる場を「わいわいクラブ」として開催しています。平成30年度は、「ゴキブリ駆除剤のホウ酸だんご作り」「健康体操と体力テスト」を行いました。

②学習会【事業部会】

事業者を対象とした環境情報についての学習会を開催しています。平成30年度も学習会の開催を計画していましたが、実施には至りませんでした。

③企業の情報交換と交流会【事業部会】

2011年度まで「第2次豊中アジェンダ 21」のリーディングプロジェクトの1つとして実施していた活動を発展させて、各事業所の環境担当者同士の情報共有や交流を図ることを目的に企業の情報交換と交流会を開催しています。平成30年度も開催を計画していましたが、実施には至りませんでした。

④写真で元気【企画屋本舗】

まちや自然といった環境に関する写真を撮り、各自のアルバム作りを通して、自分自身や環境について見つめ・発見していく場作りの講座を豊中市内で3回開催し、そのうち1回を施設で行いました。実施に際しては、一般社団法人日本写真療法家協会と連携し、資材の提供やファシリテーターの派遣を受けました。

⑤「市民向け地球温暖化対策省エネ推進事業」の実施【地球温暖化対策プロジェクト】

豊中市からの委託事業「豊中市市民向け地球温暖化対策省エネ推進事業」の一部について、施設を利用して実施しました。平成30年度は、省エネ相談会よりも詳しく省エネを考えたい方向けの講座「エネカフェ」と、エコドライブキャンペーンの一環の講座「エコドライブ講習会」を2回ずつ、計4回開催しました。また、10月にくらしの省エネをテーマとした展示を行い、同事業についてPRしました。

その他に、省エネチャレンジキャンペーンやエコドライブキャンペーン、SNSを活用した企画「【エコシェア】省エネ×SNS@豊中市」や「マチカネくん駅伝」などの広報も行いました。

7. 自主事業の経費の収支状況

平成 30 年度活動決算書（自主事業分のみ）

平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

(単位：円)

経常収益		
科目	金額	備考
受取寄付金	8,719	
受取助成金	0	
受取負担金	35,000	
受託事業	66,000	
事業収益	179,951	販売収入・参加費等
雑収入	0	
堆肥頒布受任	114,800	
経常収益計	404,470	
経常費用		
科目	金額	備考
外注費	0	
備品費	0	
図書費	0	
印刷費	4,510	
通信運搬費	0	
消耗品費	15,955	
旅費交通費	34,900	
諸謝金	83,000	
保険料	0	
賃借料	0	
租税公課	6,993	自主事業該当分の消費税等
雑費	47,974	
堆肥頒布受任	106,296	
経常費用計	299,628	
差引	104,842	